

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点(令和5年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、令和4年3月の認定基本計画に基づき、「人が輝き、人で輝く、人が主体の賑わいづくり～まちなかりスタート！南北一体化による交流シンカを目指して～」のローガンのもと、「多様な目的で人が行き交い、交流するまち」、「新たなチャレンジとライフスタイルを楽しむまち」を目指して、交流人口の拡大、まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実に努めてきた。

高岡駅前東地区においては、令和2年に民間資本によるホテルの開業、同11月には隣接する分譲マンションの入居も始まり、新たな人の流れが生み出されたところである。令和5年には同地区において新たな分譲マンションの完工も予定されている。

その他の地区においても、大野屋跡地に55戸の分譲マンションの建設が予定されているなど、民間投資による中心市街地活性化の流れが継続している。

また、市北部地域にある勝興寺が令和4年12月に国宝に指定され、高岡駅を起点としたバスの増便や観光ツアーの造成が進んでおり、駅前に新たな観光客の流れを生んでいる。令和6年3月には北陸新幹線の敦賀開業、その後の令和6年秋に北陸三県で実施される大型観光キャンペーン「北陸デスティネーションキャンペーン」の開催も控えており、さらなる交流人口の増加が見込まれる。

市内有数の観光地である山町筋や高岡大仏に近い坂下町においては、空き家になっていた長屋を活用した複合施設「サカサカ」が令和3年3月にプレオープン。商業施設の入居だけではなく、歩道に隣接するオープンスペースでのイベントも行われており、観光スポット・交流拠点として回遊性の向上が図られるなど、観光客数と歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。

一方、中心商店街においては、令和4年10月より、御旅屋通りに「賑わいの核」を生み出し、商店街などへの新規開業を促すことを目的とした、「御旅屋人マーケット」が定期開催されている。さらに令和5年3月には、起業・創業に関する情報提供・相談や交流、さらには起業後の経営相談から事業継承までを伴走支援していく、高岡まちなかスタートアップ支援施設「TASU（タス）」が御旅屋セリオ内に開設した。これらの事業とともに、空き店舗調査の結果などを相乗的に連携・展開することで、歩行者・自転車通行量増や新規開業店舗数増に付随して、中心商店街の商業機能の活性化が期待されているところである。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) **居住人口**

(基準日：毎年度3月31日)

(中心市街地区域)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (最終年度)
人口	13,702人	13,361人				
人口増減数	△216人	△341人				
自然増減数	△185人	△249人				
社会増減数	△31人	△92人				
転入者数	654人	541人				

(2) **地価の状況**

(単位：円/㎡)

	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (最終年度)
中心市街地 商業地域						
宮脇町吉田 1003-1外	90,000	87,700				
丸の内65-1	77,300	76,300				
守山町17-1外	57,100	56,500				
新横町1044- 1外	83,800	81,600				
駅南1-830-7	70,200	69,200				
中心市街地 住宅地域						
大町217-2 ※	26,700	26,300				
金屋町109-2	33,100	33,000				

※令和5年「袋町(旧大町)91外」から選定替え

出典：国土交通省地価公示・都道府県地価調査

2. 令和4年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

認定中心市街地活性化基本計画に位置付けられた事業や計画については、関係者が連携を密にし、着実に進行していると評価している。協議会としても、令和4年度から「御旅屋人マーケット」を新たに実施するなど、行政を始めとする関係者と連携・協力しながら、必要に応じた支援等を行っていききたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
多様な目的地で人が行き交い、交流するまち	主要観光施設における観光入込客数	351,000 人 (R1)	375,500 人 (R8)	241,687 人 (R4)	C	-	①
	中心商店街・観光地周辺(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値	14,425 人 (R1)	15,000 人 (R8)	12,217 人 (R4)	C	-	①
新たなチャレンジとライフスタイルを楽しむまち	中心市街地における居住人口の社会増減数	△50 人 (H29～R2)	±0 人 (R4～R8)	△92 人 (R4)	C	-	①
	中心市街地・観光地周辺における新規開業件数	57 件 (H29～R2)	60 件 (R4～R8) 12 件/年	20 件 (R4) 20 件/年	C	-	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「観光入込客数」については、新型コロナウイルス感染症拡大前である令和元年を基準年としているが、現時点ではその基準値には達していない。しかし、コロナ感染者数の減少、更には令和4年12月に勝興寺が国宝に指定されたことに伴う、市内観光地への波及効果も相まって、令和4年度の実績は、令和3年を大きく上回る結果となっている。令和6年3月には北陸新幹線の敦賀開業、その後の令和6年秋に北陸三県で実施される大型観光キャンペーン「北陸デスティネーションキャンペーン」の開催によるさらなる観光客の増が見込まれるため、目標達成は可能であると見込まれる。

「歩行者・自転車通行量」については、新型コロナウイルス感染症による自粛ムードの

緩和やイベントなどの再開によって、休日を中心に回復傾向が見られる。一方で御旅屋セリオの利用者数については百貨店の撤退以降低調に推移しているが、令和5年3月に、御旅屋セリオ4階にスタートアップ支援施設「TASU(タス)」がオープン。カフェやワーキングスペースとしても使用できるエリアもあり、起業・創業を希望する人だけではなく、一般客や学生の誘客も見込まれるため、目標達成は可能と見込まれる。

「居住人口の社会増減数」については、中心市街地地域全体では依然として社会減が続いており、計画に位置付けた事業を着実に実施し、目標達成を目指す。

具体的には中心市街地での住居の取得、リフォーム等を支援することで、中心市街地外への転居を抑制するとともに、市外からの転入増を図る。

また、高岡駅前周辺においては、計画期間中に新たな分譲マンションが2棟完成する予定であり、中心市街地への転入が増えることが想定される。

「新規開業件数」については、令和4年度は20件の実績であり、目標としている年間12件の開業を上回り、目標達成は可能と見込まれる。

また、令和4年度から、次の3つの事業を新たに実施しているところ。

- ・ 「御旅屋人マーケット」の開催（リノベーションまちづくり事業）
- ・ 「たかおかスタートアップ支援施設（TASU）」の開設（まちなかスタートアップ事業）
- ・ 空き家・空き店舗の課題の整理と休眠資産の掘り起こし（中心市街地空き家・空き店舗調査事業）

これら3つの事業を相乗的に連携・展開して、中心市街地の賑わい創出につなげていく。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

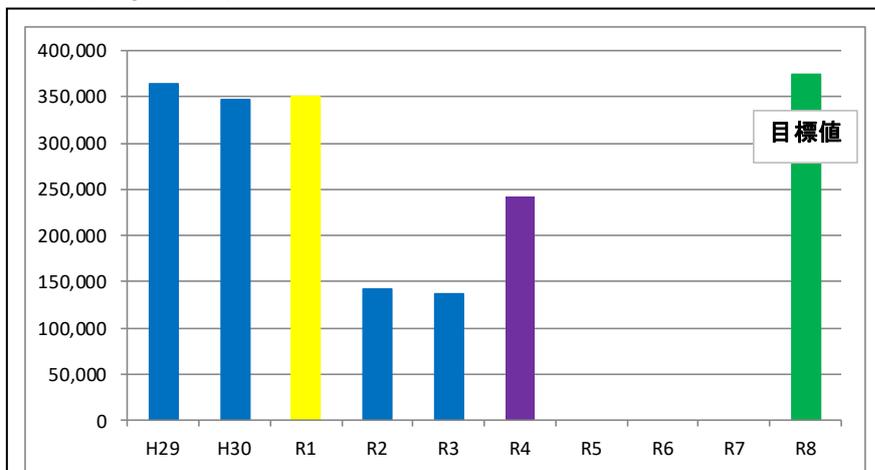
前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

（1）「主要観光施設における観光入込客数」

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 72～P. 75 参照

●調査結果と分析



年	(単位) 人
R1	351,000 (基準年値)
R4	241,687
R5	
R6	
R7	
R8	375,500 (目標値)

■ 第3期認定後 ■ 基準年値 ■ 第4期認定後 ■ 目標値

※調査方法：施設毎の1～12月の入込数を集計

※調査月：2月

※調査主体：高岡市

※調査対象：瑞龍寺、高岡大仏、山町筋（菅野家・土蔵造りのまち資料館・御車山会館）
金屋町（鋳物資料館）、高岡地場産業センター（令和3年度より計上）

	令和元年 (計画前年度)	令和4年 (1年目)	令和5年 (2年目)	令和6年 (3年目)	令和7年 (4年目)	令和8年 (5年目)
瑞龍寺	196,785	94,904				
高岡大仏	92,000	83,000				
菅野家	2,584	0				
土蔵造りのまち 資料館	4,018	2,545				
高岡御車山会館	49,098	31,461				
鋳物資料館	6,621	4,137				
高岡地域地場産 業センター	-	25,640				
合計	351,106	241,687				

（参考指標）

	令和元年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
市内宿泊者数	308,723 人	214,246 人				
市内外国人 宿泊者数	11,394人	2,412人				

〈分析内容〉

令和2年に中心市街地外に立地していた「高岡地域地場産業センター」を中心市街地にある御旅屋セリオに移転し、まちなかへの誘客を促進した。令和4年度には目標の20,000人を上回る25,640人の利用があり、期待された効果が発現している。

一方でその他の主要施設においては、新型コロナウイルス感染症や瑞龍寺ライトアップ、高岡御車山祭などの大型イベントの中止等が影響したため、令和元年度から大きく落ち込んでおり、令和4年度においてもコロナ前の水準には達していない。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 高岡地域地場産業センターの移転による増加

○高岡地域地場産業センター運営事業（（公財）高岡地域地場産業センター）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
実施主体	（公財）高岡地域地場産業センター

事業概要	昭和 58 年に設立した公益財団法人高岡地域地場産業センターは、令和 2 年 10 月に中心市街地にある御旅屋セリオへ移転し、まちなかから富山県西部地域の伝統産業の振興拠点施設として円滑な運営を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	(高岡地域地場産業センターの移転による増加) 事業目標値：+20,000 人 最新値：+25,640 人 (R1 0、R4 25,640) 達成状況：達成済み
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響からの回復需要も取り込みながら、引き続き観光客等の増加に努めていく。

イ. 北陸新幹線の敦賀開業による効果

○呉西観光誘客推進事業（富山県西部地区観光協議会）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 7 年度
実施主体	富山県西部地区観光協議会
事業概要	令和 3 年 2 月に改訂した「第 2 期とやま呉西圏域都市圏ビジョン」に基づき、圏域の多彩な観光資源（自然・文化・産業遺産等）の連携によるマーケティング・ブランディングにより、圏域の観光エリアの PR 強化・充実に努め、観光誘客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	(北陸新幹線の敦賀開業による効果) 事業目標値：+3,500 人 令和 6 年 3 月に敦賀開業予定
事業の今後について	敦賀開業を契機とした本市への観光客誘致へとつなげるため、圏域内の観光 PR の強化・充実に努める。

ウ. 賑わい集積開業等支援事業による波及効果

○賑わい集積開業等支援事業（高岡市）

事業実施期間	令和 3 年度～【実施中】
実施主体	高岡市
事業概要	商店街や観光地など指定区域において、空き店舗で新規開業する方を対象に、店舗改装費や家賃等に対し支援 旧来の 4 つの開業支援制度を一本化し、効率的、効果的な制度運用を図る。 ・ 中心市街地賑わい創出開業等支援事業（中心市街地） ・ 観光地魅力アップ開業等支援事業（観光地周辺）

	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗における開業等支援事業（周辺商店街） ・中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業（リニューアル）。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>（賑わい集積開業等支援事業による波及効果）</p> <p>事業目標値：+1,000人</p> <p>最新値：+0人</p> <p>令和4～8年度において観光地での開業店舗目標を10店舗としているが、令和4年度においては観光地での開業はなかった。</p>
事業の今後について	引き続き制度の周知や関連団体との連携を行うことで開業支援の活用を図っていく。

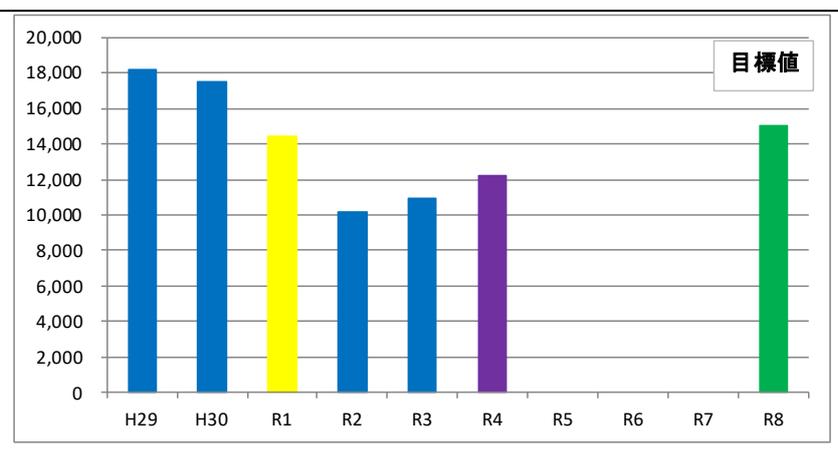
●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業はおおむね順調に進捗しており、新型コロナウイルス感染症の5類移行による各種行動制限の撤廃や自粛ムードの緩和が見込まれることを考慮すると、目標達成は可能と思われる。また、令和6年3月北陸新幹線の敦賀開業やその後の北陸ディステーションキャンペーンも中心市街地の観光客増加に大きく寄与すると思われる。

今後は呉西地域で連携した観光PRの強化を行うとともに、交通事業者と連携したアクセスの充実や、開業支援事業による魅力的な店舗の開業を促進することで、本市を訪れた観光客が中心市街地を回遊する仕掛けづくりを行っていく。

（2）中心商店街・観光地周辺（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 75～P. 81 参照



年	(単位) 人
R1	14,425 (基準年値)
R4	12,217
R5	
R6	
R7	
R8	15,000 (目標値)

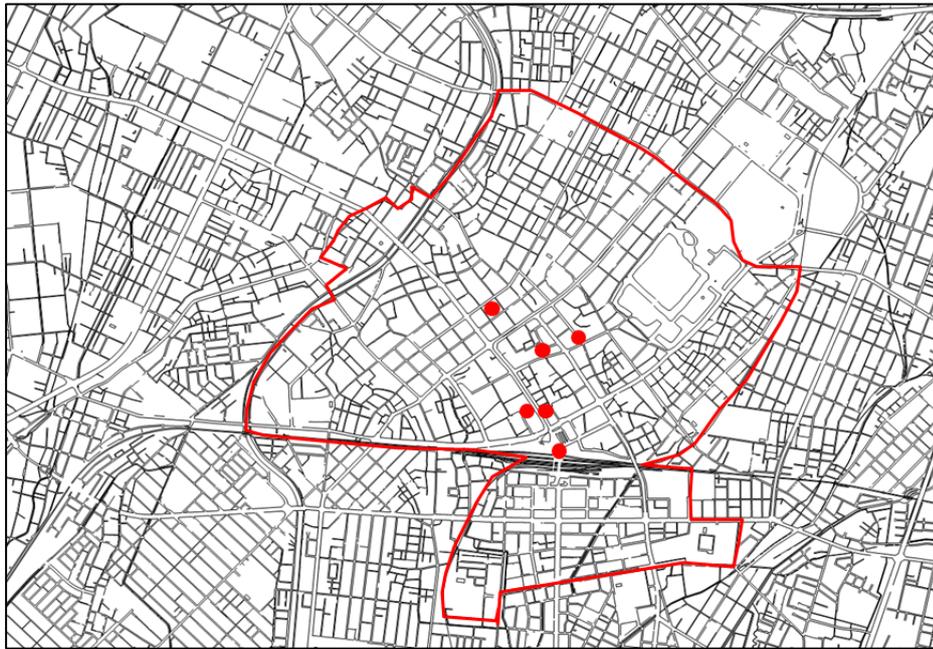
■ 第3期認定後 ■ 基準年値 ■ 第4期認定後 ■ 目標値

※調査方法： 平日・休日の歩行者・自転車通行量を計測

※調査月： 10月

※調査主体： 高岡市

※調査対象： 中心商店街・観光地周辺6地点（高岡駅前（人工デッキ）、末広町（西）、末広町（東）、御旅屋通り、大仏前、山町筋（木舟町））



		令和元年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
高岡駅前	平日	10,146	5,334				
	休日	7,623	5,620				
末広町 (東)	平日	761	918				
	休日	796	862				
末広町 (西)	平日	1,197	1,238				
	休日	1,186	1,024				
御旅屋通り	平日	891	1,002				
	休日	1,131	3,108				
大仏前	平日	1,542	1,676				
	休日	2,685	2,663				
山町筋 (木舟町)	平日	404	452				
	休日	487	536				
6地点 合計	平日	14,941	10,620				
	休日	13,908	13,813				
平均		14,425	12,217				

(参考指標) 御旅屋セリ才来館者数の平均 (人/日)

令和元年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1,157	633				

〈分析内容〉

令和元年度の百貨店撤退の影響を受け、それ以降は百貨店直近の御旅屋通り地点の通行量が大きく減少していることに加えて、令和2年からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、移動・外出の自粛、イベント縮小・中止が続いたことなどから、交通結節点でもある高岡駅前地点を筆頭に通行量の減少が見られた。しかし、自粛ムードの緩和やイベントなどの再開によって、休日を中心に回復傾向が見られており、特に御旅屋通りにおいては、「御旅屋人マーケット」をはじめとした各種イベントの実施などにより、大きく通行量が改善している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 高岡駅前東地区整備事業の居住者の周遊

○高岡駅前東地区整備事業（高岡市、高岡駅前東地区協議会、権利関係者）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度
実施主体	高岡市、高岡駅前東地区まちづくり協議会、権利関係者
事業概要	地権者と共に実現化に向けた計画の策定や民間事業の開発支援（業務施設、マンション等）、周辺環境の整備（道路、広場等）を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（高岡駅前東地区整備事業の居住者の周遊による増加） 事業目標値：+150人/日 令和5年に新たな分譲マンションの建設が予定されており、居住者の増及びそれに伴う周遊の増が期待される。
事業の今後について	計画期間中に新たな分譲マンションが整備予定であることから、引き続き、分譲マンション整備を推進し、マンション居住者によるまちなかへの流動が図られるよう取り組んでいく。

イ. セリオタウン推進事業による増加

○オタヤ子ども広場運営事業（オタヤ子ども広場実行委員会）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
実施主体	オタヤ子ども広場実行委員会
事業概要	御旅屋セリオ内にある子ども広場の運営を行い、様々な企画・イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	（セリオタウン推進事業による増加） 事業目標値：+200人/日 最新値：△524人/日（参考指標・御旅屋セリオ来館者数平均） （R1:1,157人 R4:633人） 達成状況：未達成

	令和元年度の百貨店撤退や、令和2年度からの新型コロナウイルス感染症拡大による来館者数減の影響が続いている。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症による自粛ムードの緩和を契機とした魅力的なイベントの実施などにより、更なる施設利用者の増を目指す。

ウ. リノベーションまちづくり事業による増加

○リノベーションまちづくり事業（高岡市、中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
実施主体	高岡市、中心市街地活性化協議会
事業概要	「御旅屋人マーケット」を始めとした、新しい使い方による「街のコンテンツ」を生み出すことにより、来街機会と賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（リノベーションまちづくり事業による増加） 事業目標値：+150人/日 最新値：+0人/日 R4.10月から御旅屋人マーケットを開催しており、マーケット等をきっかけとした開業及び顧客の増を見込む。
事業の今後について	商店街での定期的なマーケット開催により、中心商店街での回遊の促進、さらにはマーケットの出展者や客がアーケード内での実店舗とその顧客となるよう誘導する。

エ. （仮称）歩いて楽しいまちづくり事業による増加

○歩いて楽しいまちづくり事業（高岡市、中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
実施主体	高岡市、中心市街地活性化協議会
事業概要	歩いて楽しい中心市街地、商店街になるよう調査、検討、社会実験を実施
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	（歩いて楽しいまちづくり事業による増加） 事業目標値：+200人 御旅屋通りの通行量増とともに、周辺の大仏前の通行量増となっている。
事業の今後について	御旅屋セリオへの誘客促進や、商店街（御旅屋通り）での定期的なマーケット開催により、周辺での市街地へ派生して回遊する仕掛けづくりを行う。

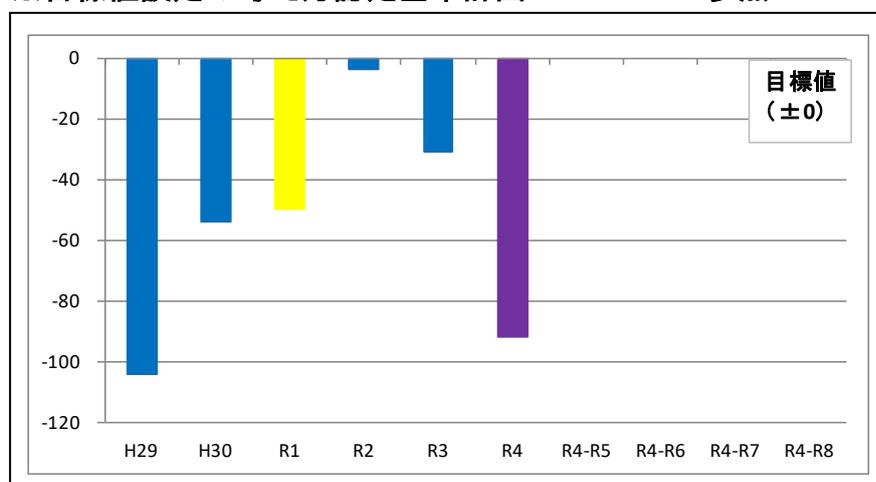
●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症による自粛ムードの緩和やイベントなどの再開によって、休日を中心に回復傾向が見られる。特に令和4年から御旅屋通りで開催している「御旅屋人マーケット」では、昨年度3回の開催で計約1万人を集客し、令和5年度においても実施することから中心市街地の通行量向上が期待される。

一方で御旅屋セリオの利用者数については百貨店の撤退以降低調に推移しているが、令和5年3月に、御旅屋セリオ4階にスタートアップ支援施設「TASU(タス)」がオープン。カフェやワーキングスペースとしても使用できるエリアもあり、起業・創業を希望する人だけではなく、一般客や学生の誘客も見込まれるため、目標達成は可能であると見込まれる。

(3) 中心市街地における居住人口の社会増減数

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 81～P. 84 参照



年	(単位) 人
R1	△50 (基準年値)
R4	△92
R4-R5	
R4-R6	
R4-R7	
R4-R8	±0 (目標値)

■ 第3期認定後 ■ 基準年値 ■ 第4期認定後 ■ 目標値

※調査方法：住民基本台帳からの集計

※調査月：3月31日

※調査主体：高岡市

※調査対象：認定区域内に居住する人

(参考指標)

	令和元年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
市内全体の転入者数	4,685人	4,894人				
市内全体の転出者数	5,149人	4,815人				
市内全体の社会増減	▲464人	79人				
エリア内の定塚地区人口	3,930人	3,964人				
定塚地区の社会増減数	113人	9人				

〈分析内容〉

平成31年3月に末広町において98邸の分譲マンションが、令和2年11月に高岡駅前東地区において130邸の分譲マンションが完成し、新規入居が増加した影響で、マンションが立地している定塚地区は社会増となっているが、それ以外の地区は社会減となっているエリアが多く、中心市街地全体では社会減となっている。社会増となった定塚地区においても、分譲マンションの入居需要が落ち着いた影響で令和元～3年度程の社会増とはなっていない。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. たかおか暮らし支援事業による増加

○たかおか暮らし支援事業（高岡市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
実施主体	高岡市
事業概要	高岡市が指定した「まちなか区域」及び「居住誘導区域（UIJ世帯または子育て世帯）」において、家屋の新築や、新築（建売）・中古住宅の取得、新築・中古分譲マンションの取得、隣接土地の取得、隣接土地の上の空き家等の除却、耐震改修に伴うリフォーム、三世帯同居のためのリフォーム、エコリフォームを行う者に対し、費用の一部を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（地域住宅政策推進事業））（国土交通省）（令和3年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（たかおか暮らし支援事業による増加） 事業目標値：+75人 最新値：+38人（R4:21件から算出） 達成状況：未達成 令和4年度で21件の実績があり、まちなか居住人口の増に寄与している。

事業の今後について	支援制度の周知に努めることで「まちなか区域」への居住支援を継続し、居住人口の維持・増加へと繋げていく。
-----------	---

イ. 高岡駅前東地区整備事業による増加

○高岡駅前東地区整備事業（高岡市、高岡駅前東地区協議会、権利関係者）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度
実施主体	高岡市、高岡駅前東地区まちづくり協議会、権利関係者
事業概要	地権者と共に実現化に向けた計画の策定や民間事業の開発支援（業務施設、マンション等）、周辺環境の整備（道路、広場等）を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	（高岡駅前東地区整備事業による増加） 事業目標値：+158人 中心市街地エリア外への転出を抑え、エリア内への転入者の増加にも寄与したと考えられるが、中心市街地全体が年々社会減となっている。
事業の今後について	引き続き、分譲マンション整備を推進し、マンション居住者によるまちなかへの流動が図られるよう取り組んでいく。

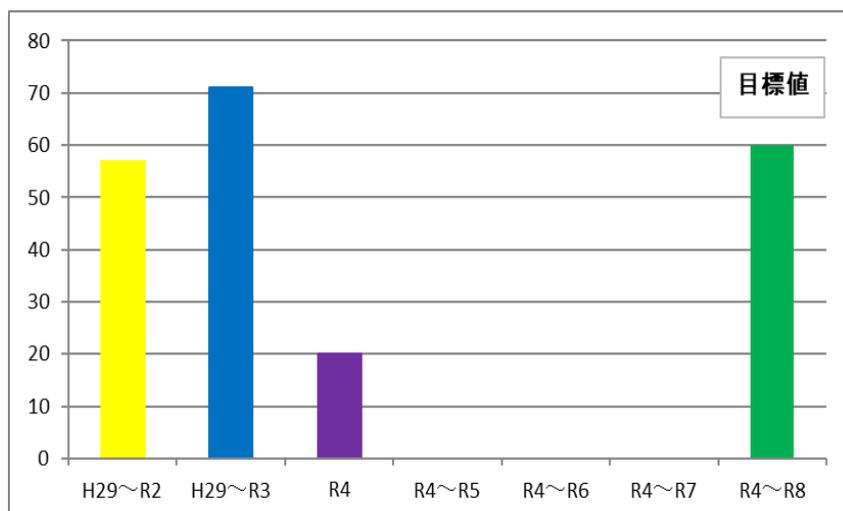
●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地地域全体では依然として社会減が続いており、計画に位置付けた事業を着実に実施し、目標達成を目指す。

具体的には中心市街地での住居の取得、リフォーム等を支援することで、中心市街地外への転居を抑制するとともに、市外からの転入増を図る。

また、高岡駅前周辺においては、計画期間中に新たな分譲マンションが2棟完成する予定であり、中心市街地への転入が増えることが想定される。

(4) 中心市街地・観光地周辺における新規開業件数
 ※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 84～P. 87 参照



年	(単位) 件
R2	57 (H29~R2) (基準年値)
R4	20
R4- R5	
R4- R6	
R4- R7	
R4- R8	60 (目標値)

■ 第3期認定後 ■ 基準年値 ■ 第4期認定後 ■ 目標値

- ※調査方法： 職員による現地調査
- ※調査月： 4月～翌年3月
- ※調査主体： 高岡市
- ※調査対象： 認定区域内における新規開業店舗
(参考指標)

	令和元年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
店舗数	99件	100件				
空き店舗件数	28件	23件				
うち利用可能な 空き店舗件数	14件	10件				

〈分析内容〉

令和4年度における新規開業件数は20件であり、目標としている年間12件ペースを上回っている。令和3年度より、4つの開業支援制度を1本化し、効率的、効果的な制度運用を図ることで、限られた予算の中での支援の実行性を上げることができた。

市全体の空き店舗数も減少しており、少しずつではあるが、新たな賑わいづくりが進んでいる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 開業支援事業による効果

○賑わい集積開業等支援事業（高岡市）

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
実施主体	高岡市
事業概要	<p>商店街や観光地など指定区域において、空き店舗で新規開業する方等を対象に、店舗改装費や家賃等に対し支援</p> <p>旧来の4つの開業支援制度を一本化し、効率的、効果的な制度運用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地賑わい創出開業等支援事業（中心市街地） ・ 観光地魅力アップ開業等支援事業（観光地周辺） ・ 空き店舗における開業等支援事業（周辺商店街） ・ 中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業（リニューアル）。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>（開業支援事業による効果）</p> <p>事業目標値：55件</p> <p>最新値：20件（R4:20件）</p> <p>達成状況：未達成</p> <p>1年度当たり11件の目標のところ20件の開業があり、目標を上回る数値となっている。</p>
事業の今後について	引き続き制度の周知や関連団体との連携を行うことで開業支援の活用を図っていく。

イ. リノベーションまちづくり事業による波及効果

○リノベーションまちづくり事業（高岡市、中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
実施主体	高岡市、中心市街地活性化協議会
事業概要	「御旅屋人マーケット」を始めとした、新しい使い方による「街のコンテンツ」を生み出すことにより、来街機会と賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>（リノベーションまちづくり事業による波及効果）</p> <p>事業目標値：+5件</p> <p>最新値：+0件</p> <p>R4.10月から御旅屋人マーケットを開催しており、マーケット等をきっかけとした開業及び顧客の増を見込む。</p>

事業の今後について

商店街での定期的なマーケット開催により、中心商店街での回遊の促進、さらにはマーケットの出店者や客がアーケード内での実店舗とその顧客となるよう誘導する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能と見込まれる。

特に令和4年度は、以下の3つの事業を新たに実施した。

- ・ 「御旅屋人マーケット」の開催（リノベーションまちづくり事業）
- ・ 「たかおかスタートアップ支援施設（TASU）」の開設（まちなかスタートアップ事業）
- ・ 空き家・空き店舗の課題の整理と休眠資産の掘り起こし（中心市街地空き家・空き店舗調査事業）

これら3つの事業を相乗的に連携・展開して、中心市街地の賑わい創出につなげていく。